

WEEKLY SIGNAL

2019年6月21日(金) 1479号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/24(月)	6/25(火)	6/26(水)	6/27(木)	6/28(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△ 700	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	+ 2,000
財政他	+ 400	△ 1,000	△ 12,000	+ 2,000	+ 5,000
資金需給	△ 300	△ 2,000	△ 13,000	ト ン	+ 7,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(20年)		
オペ期日	共通担保資金供給 △ 2,500 CP等買入 △ 300 国債補充供給 + 300				
オペスタート	国債買入 + 12,800 共通担保資金供給 + 3,700 社債等買入 + 1,300 ETF買入 + 900				
(日本)	日銀営業毎旬報告(20日現在)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4月24、25日分)		若田部日銀副総裁、金融経済懇談会であいさつ、記者会見(青森市)	G20大阪サミット(29日まで)金融政策決定会合における主な意見(6月19、20日分) 完全失業率(5月) CPI(東京都区部、6月)
(海外)		米 バウエルFRB議長、講演 米 新築住宅販売件数(5月) 米 消費者信頼感指数(6月) 米 FHFA住宅価格指数(4月)	米 民主党、大統領候補者討論会(マイアミ、27日まで)	米 GDP(1~3月) 米 新規失業保険申請件数(22日終了週) 米 中古住宅販売成約指数(5月)	米 シガン大学消費者マインド指数(6月) 欧 ユーロ圏CPI(6月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初401兆1,700億円から始まった。その後は、国庫短期証券・国債買入れや20日の国債大量償還を主因に増加し、週末となる21日には408兆9,000億円となった。
無担保コールON物とは週を通じて軟調な動きとなった。新積み期に入ったことで、ビッドサイドが慎重な調達姿勢となり、同加重平均金利は△0.069~△0.067%の狭いレンジで推移した。ターム物は1W物を中心に△0.075~△0.07%の水準で取引された。
日銀は20日、金融政策決定会合を開き、短期金利をマイナス0.1%、長期金利をゼロ%程度に誘導する金融政策の現状維持を賛成多数で決定した。
来週は国内ではG20大阪サミット(28~29日)や金融政策決定会合における主な意見(6月19、20日分)(28日)、海外ではバウエルFRB議長の講演(25日)などが予定されている。

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆500億円で、週間償還額(約1兆1,700億円)に対し減少した。発行市場は、5・10日発行と複数の業態からの大型発行があったものの、総じて落ち着いたマーケットであった。市場残高は、20日時点では約20兆6,864億円となり、先週末(20兆6,123億円)から若干増加した。発行レートは、投資家の運用ニーズに変わりなく、0%からマイナスでの出合であった。
来週の償還総額(6/24~6/28)は、月末償還分(2兆8,600億円)を含め4兆500億円程度となっている。発行市場は、四半期末の残高調整を行う企業もあって償還超が見込まれるものの、幅広い企業からの新規発行が予想される。発行レートは、投資家は0%以上であれば運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合となろう。CP等買入れオペが、25日に2,500億円程度オファーされる予定である。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、長期金利の低下を受け1Y物・6M物の利回りが大きく低下。19日入札の1Y839回債は、最高落札レート△0.1851%(前回債△0.1553%)、平均落札レート△0.2068%(同△0.1603%)と前回債から大きく低下した。一方で3M物は、7日入札の3M837回債は、最高落札レート△0.1288%(前回債△0.1407%)、平均落札レート△0.1384%(同△0.1483%)と前回債から上昇した。セカンダリー市場では3M物で△0.14%程度での出合が見られた。
来週は28日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.105%~△0.115%で始まり、週央にかけて△0.10%近辺まで上昇した。短国3Mの発行日となる24日受け渡しは、△0.085%~△0.09%の出合いが多く見られた。SC取引では10年354回債のbidが多く、国債買入オペがオファーされた24日受け渡しは△0.10%前半~半ばの出合い。5年139回債は、入札日前日△0.20%近辺で取引された。他2年399・400・401回債、5年137・138回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62回債、40年9・10・11・12回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。